

第16回各務原市地域公共交通会議 議事録

日 時	平成30年1月12日（金） 14：00～
場 所	各務原市役所 産業文化センター 8階第1特別会議室
委 員 (敬称略)	<p>【出席】</p> <p>武藤 行儀 (岐阜乗合自動車株式会社常務取締役営業管理部長) (代理：光村)</p> <p>近藤 博之 (名鉄バス株式会社運輸部長兼運輸計画課長) (代理：平塚)</p> <p>豊田 智隆 (東海旅客鉄道株式会社鉄道事業本部総務課課長代理)</p> <p>夫馬 康昌 (名古屋鉄道株式会社西部支配人室営業総務課長)</p> <p>石井 靖治 (岐阜交通東部株式会社代表取締役)</p> <p>山田 健太郎 (岐阜県タクシー協会岐阜支部支部長)</p> <p>山田 芳喜 ((公社)岐阜県バス協会専務理事)</p> <p>鷲見 高志 (岐阜乗合自動車労働組合執行委員長)</p> <p>西村 順造 (蘇原自治会連合会長)</p> <p>篠田 勲 (那加自治会連合会長)</p> <p>早野 忠之 (稲羽川島自治会連合会長)</p> <p>磯野 満 (鵜沼自治会連合会長)</p> <p>多和田 弘子 (市シニアクラブ連合会理事兼女性部会部長)</p> <p>清水 孝子 (八木山地区生活支援ボランティア事務局員)</p> <p>二輪 昭宏 (中部運輸局岐阜運輸支局首席運輸企画専門官) (代理：住田)</p> <p>野田 純大 (岐阜国道事務所管理第一課長)</p> <p>高井 光介 (各務原警察署交通課長)</p> <p>仙石 浅善 (各務原市議会経済教育常任委員長)</p> <p>各務 英雄 (各務原商工会議所専務理事)</p> <p>倉内 文孝 (岐阜大学)</p> <p>小鍋 泰弘 (各務原市副市長)</p> <p>【事務局】</p> <p>各務原市 産業活力部商工振興課</p>

・委員長あいさつ

・報告

- ①特定路線調査の実施結果について 【資料1】
- ②ふれあいバス等懇談会の実施結果について 【資料2】
- ③利用促進事業の取り組みについて 【資料3】
- ④各務原ふれあいタクシーのプロポーザルについて 【資料4】

・議事

- ①地域公共交通確保維持改善事業に関する事業評価（案）について 【資料5】
- ②ふれあいバスへの土日祝日限定1日乗車券の設定について 【資料6】

・その他

■委員長あいさつ

委員長 挨拶

皆様、本日はお忙しい中お集まりいただきまして誠にありがとうございます。本年も明けまして、どうぞよろしくお祈り申し上げます。今年度2回目となります、第16回各務原市地域公共交通会議でございますが、どうぞよろしくお祈りいたします。

本市のふれあいバスに関しては、平成27年10月より再編成ということでございまして、利用者数も伸びし続けております。また、平成29年度は、年間利用者が20万人を超えております。公共交通は単に利用者を増やすだけでなく、利用者の皆様の満足度を上げていかなければなりません。その中で、限られた予算、財源、資源をどのように活用していくかということがございますので、まだ課題がたくさんあるという状況でございます。また、皆様のお知恵をお借りしながら、取り組んでいきたいと存じます。高齢者の方の健康であるとか、福祉分野との連携とか、自動運転とか、いろんな取り組みがある中で、本市の公共交通について、皆様のご指導をいただきながら考えていきたいと存じます。本日は、中部運輸局様より2名お越しいただいております。誠にありがとうございます。以上を持ちまして、挨拶とさせていただきます。皆様、業務お忙しい中とは存じますが、どうぞよろしくお祈りいたします。

■岐阜乗合自動車より

報告

この度はお時間をいただき、一点ご報告とお詫びを申し上げたいと存じます。昨年10月24日、弊社が運行委託を受けている「各務原市ふれあいバス」川島線におきまして、終点の一つ手前の停留所について、お客様がいなくなった際に運行を中断し、最後の停留所を経由せず帰路するという事案が発生いたしました。路線バス事業者というものは、運行契約の定めによりその業務を行うことが法令に定められております。

今回のような事例は、皆様の信頼を欠落するという事態でございました。今後は、法令順守をはじめとしたコンプライアンス意識の再徹底を従業員に対し徹底し、開発防止に徹底していく所存でございます。この度は、誠に申し訳ございませんでした。

■報告

・報告①特定路線調査の実施結果について

※委員からの質問や指摘事項は、なし

・報告②ふれあいバス等懇談会の実施結果について

※委員からの質問や指摘事項は、なし

主な質問・指摘事項	回答・対応方針
<p><西村></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 特段意見なし。 	<p>—</p>
<p><篠田></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 懇談会について、那加西福祉センターの参加者数が0名となっているが、この地域はあまりバスを利用していないのか。また、那加二・三校区での開催も検討してほしい。 	<p><事務局></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 那加線は、尾崎団地での利用者は多いが、それ以外は車移動が多く、利用割合は少し低い傾向と思われる。説明会は、那加地区の方向けに産業文化センターで行っているが、参加人数は少ないので、今後の開催場所についてはご意見を参考に検討していきたい。
<p><早野></p> <ul style="list-style-type: none"> ● バスを主に使うのは、学生の通学や高齢者の方が多いと考えられる。そういった利用者の方たちに焦点を合わせた形で今後も取り組みを進めると良いと思う。また、バスは生活に必要なものなので、料金についても今後は重要な検討事項であると思う。 	<p>—</p>
<p><磯野></p> <ul style="list-style-type: none"> ● バスは利用する人は頻繁に使うが、利用しない人は一度も乗ったことがない人がほとんどだと思う。地域で独自にバスの乗り方を案内している事例もあるので、市と地域で連携してPRを活発に行っていくべき。財源の制限の中で運営していくには、市・自治会・社協等地域と一緒に考える場を設けていく必要があると思う 	<p>—</p>
<p><多和田></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 特段意見なし。 	<p>—</p>

・報告③利用促進事業の取り組みについて

報告・意見

<八木山地区 清水>

八木山地区社協では、3年ほど前から移動手段について考えている。今は自家用車が使えているから問題ないというわけではなく、これは地域の問題なのだという当事者意識を持ってもらえるよう、地域で取り組んできた。その中のひとつが、「乗車体験バスツアー」である。この取り組みは、参加者から「楽しいから毎月やってほしい」という声があがり、月一回行うこととなった。

これは単なる移動ではなく、サロンのような役割も担っており、活動によって人と人とのつながりも深まっている。バスだけで足りない部分については、例えば「新春の集い」の参加者を対象に「ささえあい号」での移送を行った。また、バス停近くの医療機関等にバス時刻表の掲示を促す取り組みをした。

このように、八木山地区では、バスでできない部分を地域で補い合っている。

・報告④各務原ふれあいタクシーのプロポーザルについて

※委員からの質問や指摘事項は、なし

■議事

・議事①地域公共交通確保維持改善事業に関する事業評価（案）について

主な質問・指摘事項	回答・対応方針
<p data-bbox="114 293 368 327"><運輸支局 住田></p> <p data-bbox="114 338 783 566">国の補助を受けている如何に関わらず、網計画に策定されている内容については、事業が計画的にできているか、設定した目標を達成しているかということ定期的に把握し、改善に繋げていただくことは公共交通会議の役割の1つとなっている。</p> <p data-bbox="114 577 783 757">事業評価は、補助金を受けている路線だけではなく、それ以外の路線も見ることにより、地域全体の公共交通がどのようにになっているかを把握することに繋がってくると思われる。</p> <p data-bbox="114 768 783 947">各務原市全体の評価ということで、フィーダー補助、地域間幹線だけでなく、そのほかの路線の評価もオープンにしていきたい。それを踏まえて、こういった会議の場等で考えていただければと思う。</p>	<p data-bbox="810 293 1190 327">今後の参考とさせていただく。</p>

・議事②ふれあいバスへの土日祝日限定1日乗車券の設定について

※委員からの質問や意見は、なし

■その他

■総括

倉内先生 総括

皆様お疲れさまでございました。今日の一連の流れについて、コメントさせていただきたいと思います。

まず運行時間の調整につきまして、細かな時間の調整についても検討されていて大変良いかと思えます。

事後評価につきましても、数値は達成しているにも関わらず、課題があるということでB評価とされている謙虚な対応をされていると思えます。抱える課題はなかなか難しいところではございますが、改善していただけると良いと思えます。

一点お願いは、意見箱に関して、検討できたこと、できなかったこと等掲示をしていただけるとよいと思えます。例えば、バス車内等でフィードバックしていただけるとバスを利用されている方々が見ることができるので良いと思えます。もちろん全てが対応できるわけではないので、そういった内容も含めて検討してみてください。

また、子どもや若い方に興味を持ってもらうことは非常に大事で、報告の中でも、子どもとバスがふれあえるような活動のお話がありましたが、こういった活動を今後も継続していただきたいと存じます。